



第144号

宮城県亶理農業改良普及センター

〒989-2301

亶理郡亶理町逢隈中泉字本木9

TEL 0223-34-1141

FAX 0223-34-1143

E-mail wrnokai@pref.miyagi.lg.jp

https://www.pref.miyagi.jp/site/wrnk/



米価下落を作付転換のきっかけとしてとらえ、 前向きに！計画的に！

宮城県亶理農業改良普及センター 所長 井上 眞 弘

昨年は、新型コロナウイルス感染症への対応で現地活動が難しい状態でありましたが、さらに、米価下落や燃油高騰、豚熱への対応等があり、情勢が大変厳しい中で新年がスタートしました。

県では、米価下落対策等への対応として、「作付転換営農継続支援事業」を令和3年度補正予算で措置しました。この事業は、主食用米の需要が今後も減少することを見据えて、主食用米から大豆・麦・園芸作物・飼料作物等への作付転換・拡大を図るための生産資材・機械施設の導入支援を行うもので、多くの市町村で、次年度稲作への支援として、交付金等で農業者への支援を行う中で、大きく舵を切ったと考えております。この理由としては、中長期的な米の需給の傾向を踏まえ、農業者が安定的に経営を行うためには所得確保につながる園芸作物などへの作付転換が必要であると考え、宮城県の基幹農家である稲作農家等の経営安定化を図っていこうとするものですので、ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

また、年末にかけて、燃油価格高騰への対応として、「施設園芸省エネ化緊急対策事業」が令和3年度補正予算で措置され、申請期間が短い中で、事業申請ができた経営体は、計画的にビニールの張替え等を実施していた経営

体等が多いようです。このことは、前向きに・計画的に実施していくことの大切さを示しているのではないかと考えております。この機会に、自分の経営を考え、これから数年間の機械等の更新やビニールの張替え等の計画を改めて作ってみてはどうでしょうか。

一方、明るい話題として、12月24日に「亶理・山元果樹産地協議会設立総会」が行われ、県内3例目の産地協議会（会長：亶理町 片平氏）がスタートしました。この協議会が設置されたことにより、「亶理・山元果樹産地構造改革計画（仮称）」を策定すれば、優良品種導入・生産基盤の整備・未収益期間の支援・廃園対策等に事業が活用できるようになり、亶理地域の果樹が持続的に維持・発展していくことが期待されますので、アンケート等へのご協力や関係機関の一体となったご支援をよろしくお願いいたします。

普及センターでは、今年も、新型コロナウイルス感染症対策に配慮しながら、作付転換支援や燃油高騰対策等の事業を進め、園芸産出額の増大と農業経営の安定化に向けて、農業者の皆様と共に取り組んでまいりますので、今年もどうぞよろしくお願いいたします。

〈令和3年度 プロジェクト課題 活動紹介〉

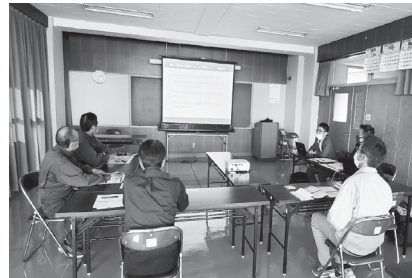
次代につなぐ大規模法人の生産体制整備による経営の安定化

震災後に設立され、営農体制を整備してきた土地利用型法人では、経営の発展とともに、人材の確保や将来の経営継承が課題となっており、普及センターでは、この課題に取り組む岩沼市の法人を支援しています。

今年度は、法人が導入している経営生産管理システムを有効に運用するため、アグリテックアドバイザー派遣事業を活用し、営農の効率化に向けたデータ整備・分析方法の習得に向けた助言を行うとともに、経営承継に向けた人材の確保・育成等に関する支援を行いました。

また、法人の主力品目である大豆の生産技術改善による単収の向上、従業員が周年で働ける体制を整備するため、新品目として、スイートコーンや白菜の試験導入等の支援を行っております。

普及センターでは、農業法人の組織運営と生産技術の両面にわたる支援を行い、経営継承を一つのゴールとするモデル法人の育成に取り組んでいきます。



アグリテックアドバイザーによる助言

新品種「にこにこベリー」導入定着によるいちごの安定生産

令和元年の本格デビューから本年3作目になる「にこにこベリー」は、管内のみやぎ亘理農協いちご部会30名と、名取市いちご生産者1名、いちご生産法人4社の合わせて約7.2haの面積で作付けされています。普及センター活動の中では、育苗期の肥培管理の指導、年内収穫に向けた夜冷短日処理と定植時期の適正化への誘導により、年内の安定出荷が実現しています。また、昨年度、団地生産者を対象に実施した、いちご作付け全般の聞き取り調査結果を基に、「にこにこベリー」の栽培技術、いちご栽培の基礎知識について記載した「普及センター通信」を毎月発行しています。更に昨年度発行した「にこにこベリー」導入モデル資料の改訂版を作成し、生産者の皆さんに配布する予定です。

今後、「にこにこベリー」の栽培面積が増加することが予想されています。今年度作成した「普及センター通信」に加え、これから発行予定の導入モデル資料改訂版を基に「にこにこベリー」の栽培技術をより早く定着できるよう支援していきます。



1月のにこにこベリー巡回の様子

「シャインマスカット」の栽培技術力向上による生産拡大

新たな地域特産品の1つとして注目されている「シャインマスカット」は、消費者からの需要が高く、直売所等でも人気の商品です。また、空きハウスの活用や複合経営の品目として、生産者の導入意向が高まっています。

今年度、当プロジェクトでは、収量・品質向上、省力化等の技術習得に向けて、JAや各直売所等と連携して、研修会を開催しました。支援対象者の1組織である農事組合法人志賀(岩沼市)では、水稻育苗ハウスを有効活用してぶどう栽培面積を拡大し、技術習得に励みました。シャインマスカットの生育は、目標の樹冠面積にほぼ到達し、次年度から収穫開始予定です。

また、PR支援として、昨年に引き続き2回目の生産者合同販売会を、令和3年9月19日に開催しました。今年は、役場や商工会等の関係機関と連携し、シャインマスカットを使った商品開発支援や、生産者・商品開発者が利用可能な共通マークを作成し、産地のPRを行いました。当日は、新鮮なシャインマスカットや新商品の購入を目的に、たくさんのお客様が直売所を訪れました。



研修会風景(左)と商品開発例(鳥の海ふれあい市場「シャインマスカットブレンドソフトクリーム」)(右)

新たな取組の定着による持続可能なカーネーション産地の実現

名取市花卉生産組合のカーネーション生産者は、化学合成農薬だけに頼らず天敵を活用する等、様々な技術を併用して病害虫の発生を抑制する「IPM（総合的病害虫管理）」や冬季の夜間変温管理により燃油消費量の削減を図る「EOD-heating」、消費者が産地名を認識して切り花を購入することができる産地表示販売に取り組んでいます。

今年度、2つの新たな生産技術においては、産地内での現地実証を支援し、各技術の効果を確認するとともに、得られた結果を現地検討会で共有し、栽培体系への取り込み方法等を検討しました。また、実需者の協力を得て、母の日前の需要期に販売実証に取り組むことで、新たに地元生花店を含めた産地表示販売が実現し、生産者と生花店の繋がりを作ることができました。

普及センターでは、今後も継続して、新たな栽培管理技術や販売手法の導入に向けた支援を行っていきます。



IPM現地検討会



生花店に産地表示販売の協力を依頼する生産者の様子



ポップ例

トピックス

「亘理名取地区農業士会・農村青少年クラブ連絡協議会合同研修会」を開催しました

令和3年10月29日、亘理名取地区農業士会と亘理名取地区農村青少年クラブ連絡協議会が、合同研修会を開催しました。

当日は、「5年後に大きな差がでる経営計画の立て方」と題して、HS経営コンサルティング株式会社の本田 茂氏を講師に、事業が成功するために必要な知識、目的と目標の違いやPDCAサイクルの重要性、経営計画の作成方法等に関する講義が行われ、受講者それぞれが自身の経営の10年後のビジョンを考え、それを達成するための目標設定を行いました。

参加した受講者からは、「実際に計画を書くことで、新たな気づきがあった」等の感想もあり、とても有意義な時間となりました。

普及センターでは、今後も研修会等を通じて、地域農業を担う農業者の資質向上に向けた取組を支援してまいります。



講師の話熱心に聞く農業士・4Hクラブ員

令和3年度水稲乾田直播栽培勉強会「総合検討会」を開催しました

令和4年1月18日に岩沼市を会場に、令和3年産の乾田直播栽培を振り返り、次期作に向けた意見交換の場として、水稲乾田直播栽培勉強会「総合検討会」を開催しました。農業者や関係機関等、計40名が参加しました。

検討会の前半では、普及センターから生育調査結果について説明した後、センターから講演がありました。東北農業研究センターからは、生育量を確保するためにはスタートの苗立ち数が重要であることや苗立ち数を確保するためのほ場づくりのポイント等について説明がありました。さらに、低コスト化するためには機械の汎用利用（畑作物との輪作）や収量の確保が必要であることが説明されました。

後半では、参加した農業者からの今作の反省点等についての話があり、それに対して研究機関からは、改善のための具体的な助言をいただく等、活発な意見交換がなされました。

次年度も乾田直播栽培は拡大見込みであり、普及センターでは継続して勉強会等を開催してまいります。

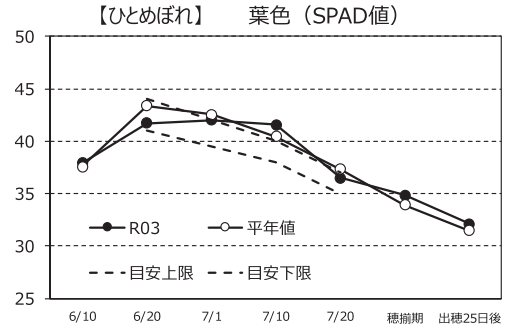
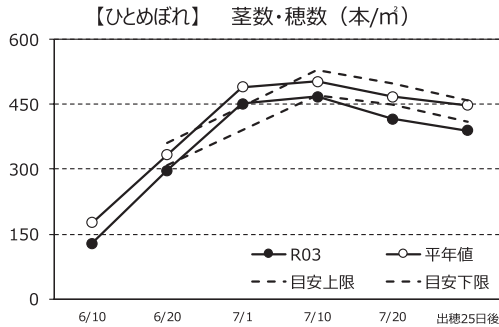


水稲乾田直播栽培勉強会「総合検討会」の様子

令和3年産水稻の生育と作柄

■「ひとめぼれ」生育経過（生育調査ほ）

茎数は、平年よりも少なく推移したものの、概ね栽培ごよみにおける目安の穂数を確保できていました。葉色は概ね平年並みに推移し、幼穂形成期から減数分裂期（7月10日頃～7月20日頃）にかけても目安の数値を維持していました。



■「ひとめぼれ」収量構成要素（生育調査ほ）

品種	調査地点		収量構成要素					
			1㎡当たり穂数 (本/㎡)	1穂粉数 (粒/穂)	1㎡当たり粉数 (百粒/㎡)	登熟歩合 1.9mm≤ (%)	玄米千粒重 1.9mm≤ (g/千粒)	精玄米重 1.9mm≤ (kg/10a)
ひとめぼれ	4市町平均	本年値	390	75.8	296	79.8	22.8	501
		平年比	87%	109%	97%	105%	102%	99%

1㎡当たり粉数は平年よりやや少なくなりました（平年比97%）。全県的には、登熟歩合が低い傾向だったものの、管内では1㎡当たり粉数が適正で（目安：280～300百粒/㎡）、生育後半も葉色を維持できていたことから、登熟歩合は平年より高く、収量は平年並みで501kg/10aでした。

■作柄（東北農政局 令和3年12月8日公表）

区域	作況指数	篩目1.9mm 収穫量
宮城県中部（巨理農改管内含む）	101（平年並）	499kg/10a
宮城県全体	101（平年並）	520kg/10a

お知らせ

株式会社一莓一笑が全国優良経営体表彰「働き方改革部門」経営局長賞を受賞しました

山元町の株式会社一莓一笑（代表取締役 佐藤拓実氏）が、令和3年度全国優良経営体表彰の「働き方改革部門」において、経営局長賞を受賞されました。本部門は、生産性が高く、人に優しい職場環境づくりの取組に優れた農業者を表彰するものです。

株式会社一莓一笑では、ICTを活用した生産効率向上、農福連携、従業員が働きやすい労働環境の改善、地域の後継者育成等に先進的に取り組んでおり、その内容が高く評価されました。

令和3年12月24日（金）には、宮城県庁において農政部長より賞状等が伝達されました。

今後も、農業経営の発展と、地域の活性化に向け、益々、御活躍されることを祈念いたします。



宮川農政部長と記念撮影する佐藤代表（右）